

事例を通して、業務に役立つ知識や気づきをお伝えします。

※プライバシー保護のため、事例は個人が特定されないよう一部修正・変更を加えています。

ケアマネ
気づきのチカラ
～明日へのヒント～

テーマ
ごみが捨てられない

啜えたイ
ベテランケアマネ
Uさん

ご利用者情報

70代前半の男性Cさん(要介護1)。数年前に妻が他界し、独居生活をしています。

介入の経緯

妻の他界後、長女が定期的にCさんを訪問していましたが、コロナ禍で足の遠のいてしまいました。そんな折会社の元同僚がCさんと会う約束をしてきたところ、待ち合わせ時間を過ぎても現れないと長女に連絡が入りました。長女が自宅を訪れたところ、Cさんが倒れており救急搬送。その後の検査で大腸に腫瘍が見つかりストーマの造設手術を受けました。退院後、訪問看護と訪問介護が開始されました。

介入時の状況

長女が訪問しなくなってきたから、Cさん宅はごみであふれる状態になっていました。片付けについて相談すると「そばに物が無いと不安」との理由で積み上がったごみに触れることを拒まれました。また、洗面所とトイレには入らないようにとの断りがあり、気難しい様子も見られました。

介入後の経過

洗面所にはストーマの汚物がたまっていくことが分かり、長女からCさんにヘルパーによるごみ捨てを提案しました。その結果、ようやく許可が得られました。以後、日常生活で出るごみとともに、定期的なごみ出しができるようになりました。また、介入当初は訪問者を嫌がっていましたが、週1回のリハビリ職員による階段昇降訓練や、訪問看護によるストーマ交換の前に、自分でシャワー浴を行うなど、介入の意図に納得したことに伴ってCさん自身から動くようになりました。

気づき

Cさんは妻の他界や入院の影響でうつ状態が見られ、またプライドが高いところがあります。自分でごみを捨てられないことを他者から指摘されたくないという想いがあったのかもかもしれません。今回ヘルパーが洗面所に入ることができ、ストーマの汚物を処理できたことがきっかけで、少しずつですが変化が見られています。

いつもありがとうございます！

第6回 地域医療連携のご紹介

医療法人社団 総生会
麻生総合病院

川崎市麻生区上麻生6-25-1
TEL 044-987-2522

貴院について教えてください。

当院は現在、HCU病棟8床、一般急性期病棟94床、地域包括医療病棟97床(2024年6月に一般急性期病棟を47床転換、10月に地域包括ケア病棟を50床転換)の合計199床を有し、麻生区のみならず、町田市や横浜市からの救急対応も行っていきます。また、整形外科医が24時間体制で救急患者さんを受け入れている点も特徴です。地域包括医療病棟とは、令和6年度診療報酬改定で新設された施設基準で、高齢者に必要な多職種配置(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・看護補助者など)をして、早期の在宅復帰支援を目的とした病棟です。当法人の麻生リハビリ総合病院も隣接しており、365日体制でリハビリテーションを提供し、国の方針に沿って、入院中のADL低下を防ぐ役割も担っています。

地域医療連携について教えてください。

入退院支援室が地域医療連携の窓口となり、看護師1名、社会福祉士5名、事務員2名が対応しています。入



安心して療養生活を送ることができるように、お手伝いさせていただきます。

退院支援は、迅速かつ継続的に取り組んでおり、患者さんの入院から7日以内に入退院スクリーニングカンファレンスを実施し、治療やリハビリ状況の共有や退院支援計画を立案していきます。入院前の生活の様子を病院側が把握することで、具体的な退院支援と調整が可能になるため、日頃より、担当ケアマネジャーから届く「入院時情報提供書」は非常にありがたく、多職種で共有し活用させていただいています。

読者の皆様にメッセージをお願いします。

患者さんの容体によって、退院した後のご自宅での生活に対し専門職の方々も不安を感じることがあると思います。入退院支援室では、多職種と連携して、患者さんが安心してご自宅に戻れるよう、退院後の生活を一緒に考えていきます。退院後を心配されていた方が、思った以上に安定して過ごされているケースも多いです。少しでも不安な点があれば、どうぞお気軽にご相談ください。



たまフレ！就労継続支援B型
ご利用者制作のアートグッズが人気！

1年半前、米袋を活用した手提げ袋を作り、そこに絵を描いたことがきっかけで始まったたまフレ！就労継続支援B型での創作活動。スタッフのアイデアでご利用者の制作意欲も高まり、グッズ販売するまでに活動が広がりました。

精米作業で使う米袋をリサイクル！



たまフレ！では精米作業を行い、たまふれあいグループの介護施設に精米仕立てのお米を提供しています。創作活動は、仕入れの際の米袋のリサイクル活動でもあります！

社内販売で購入者とのやり取りも貴重な機会



制作したグッズは完売するほどの人気



かながわ県民センター1階のカフェ「ともしび」のグッズコーナーでも販売。売り切れになることも。

絵を描くことに自信がなかったご利用者も、のびのびと作品作りを楽しんでいます。どんどん絵が描けるようになり、素晴らしいアート作品が生まれています。個性豊かな作品がスタッフの手でアートグッズとなり、手に取っていただける機会も増えました！



たまフレ！ご利用者とデイサービスご利用者のコラボ作品も



昨年春に「デイサービスふれあい」のスタッフからの依頼でたまフレ！のご利用者が米袋に桜の幹を描きました。



その幹に花を咲かせたのはデイサービスのご利用者。アートなコラボ作品に感動！

